

平成 23 年度悠久会全国総会「富士山茶つきり静岡総会」を終えて

静岡支部長 松下 剛(電子 50)

実行委員長 望月 茂樹(機械 51)

平成 23 年 7 月 2 日、ホテルアソシア静岡において今年度の悠久会全国総会「富士山茶つきり静岡総会」が開催されました。今年の全国総会開催に際しては、3 月 11 日におきた東日本大震災とその後の余震の影響、また時間の経過とともに悪化する福島原発情勢と電力不足問題が続き開催を懸念する声もありましたが、悠久会事務局の絶大なるバックアップのご支援をいただき無事開催することができました。全国の悠久会会員のみなさまのご協力の元、総会出席者 152 名、懇親会 149 名、翌日の観光にも 44 名の方々が参加されました。改めて悠久会の伝統の力と組織の絆の強さを感じた次第です。本書面をお借りして、心より御礼申し上げます。

講演会は、津田紘氏（元スズキ株式会社社長）から『不撓不屈の精神こそ生きる力』との題で講演が行われました。

日本国家の成長は、中央アジア、中国から文化・技術を学ぶと言う、日本民族の戦略的な強い信念の元、遣唐使等に始まる海外との交流から始まり、現在に至っています。

この歴史の中で、戦国時代には今回の全国大会が開催された静岡県を中心に、北条・武田と織田・徳川のせめぎ合いや、上杉と

武田・織田が複雑な関係を構成し、新潟とも深い関係にありました。戦国時代の領主は領民の安心を守るという信念の元行動しており、その人格・哲学は学ぶべき物が多くありました。

現代においてもこの静岡の地には、豊田佐吉、本田宗一郎、鈴木修等多くの企業家、実業家を生み、日本を発展させてきましたが、これらの人たちに共通する生き方は“不撓不屈”であったと思います。

一方、長い歴史の中、戦争、台風、地震、新ウィルスなど多くの自然の脅威・災害・事件がありました。

この様な原稿を津田氏が書かれていたまさにその時“東日本大震災”が発生した為、急遽内容を見直され、今回の講演になったそうです。多くの大変化・災害は簡単には止められませんが、被害拡大防止と未来構想の力が発揮されなくてはなりません。この為には戦国武将の様な戦略的な強い精神が必要です。最後に下記のようなまとめがあり、大変印象に残る講演会になりました。又、懇親会の席でも津田様を囲み、静岡の企業家のお話などに花が咲きました。



ご講演される津田紘氏

◎終わりに当って・・・不撓不屈の精神は生きる力

☆“不撓不屈”とは、困難に屈したり、挫けたりしないこと

☆日本の歴史の中で、“困難をばねにした”精神で今を築いた多くの先人の力

☆最も大切なのは、先人の下で“屈しない努力”で今の社会基盤を作った現場の人達の力

さて、これからの日本の力は???

全国理事会・全国総会は、冒頭東日本大震災で被害に遭われた皆様に対して黙祷を行ってから議事に入りました。平成 22 年度の事業報告・決算報告と会計監査報告、平成 23 年度の計画

と予算案が審議されました。震災に関わる対応に関して、特別基金を成立して被災した学生を対象に給付を複数年に亘り募集する方針が承認されました。また、震災の被害を受けられたみちのく、日立、鹿島各支部長から震災の状況等について説明をいただきました。奨学金については一部返済免除型の奨学金について、また名簿の発行について今年度も含め当面発行を行わない方針が提案され、承認されました。



全国理事会・総会開会

懇親会は、内田理事長のお酒談義を交えたご挨拶と坪川学部長の乾杯で開宴となりました。地元食材をベースとした食事とお酒をいただきながら、開催地静岡市の推進する“おもてなし”イベントのミニ版を披露してみました。まずは地元で長く歌いつながられている“茶つきり節”の唄と踊り、そしてろうろうと謳い上げられた“安倍川筏流し唄”が場内に余韻を残しました。一転、それに続いたのが若さ爆発の静岡大学よさこいサークル「お茶ノ子祭々」の演舞“陽昇”の登場です。壇上狭しと舞う踊りとカラフルな衣装、そして出演者から投げかけられる笑顔に、会場はいやされ非常に盛り上がりました。そして更に参加者の注目を誘ったのが大道芸人「ももっち」のジャグリングの妙技と緊張感あふれる演技でした。一瞬の静寂と演技の成功に寄せられる拍手喝采が会場一杯に広がりました。恒例の次回開催地のアピールタイムでは、神奈川支部から10名以上のみなさんが壇上に上がっていただき、会員みなさんに次回への強い期待感をアピールできたと思います。



翌日の観光は、「静岡市名所めぐり」として伝統産業と歴史のテーマ館“駿府匠宿”、徳川家康公を祀る国宝久能山東照宮、羽衣伝説の松原を観光バスで訪れました。

三保の松原では、新旧交代された伝説の松がある松原を散策しました。残念ながら視界が悪く浜辺より期待していた“白砂青松に富士”を見ることができませんでした。

久能山東照宮では、石垣いちごの生産地である麓より1159段の石段を登っての参拝となりました。連日の猛暑続きの中ではありませんでしたが、一人も落伍者を出さずに参加者44人全員登頂する事が出来ました。よい汗をかいた後、清水港にあるエスパルスドリームプラザ内の寿司屋横丁にて昼食をとりました。皆さん冷たい飲み物がすすみお互いに親交を深めることができました。きっと良い思い出になったのではないかと思います。



駿府匠宿にて記念写真



国宝久能山東照宮にて